

5. 本市の骨格的な景観構造と特性

5-1. 本市の骨格的な景観構造

本市は、都市化の進展に伴い古くから形成されてきた田園や丘陵などの風景は変貌をしてきていますが、南北に貫流する寝屋川や西部の淀川河川敷、市街地背後の生駒山系の丘陵などの地形的な特色とともに、高宮廃寺跡や寝屋長者屋敷跡の周辺のまちなみ、河川・水路・ため池など、まだ多くの景観を形成するうえでの資源は残されています。

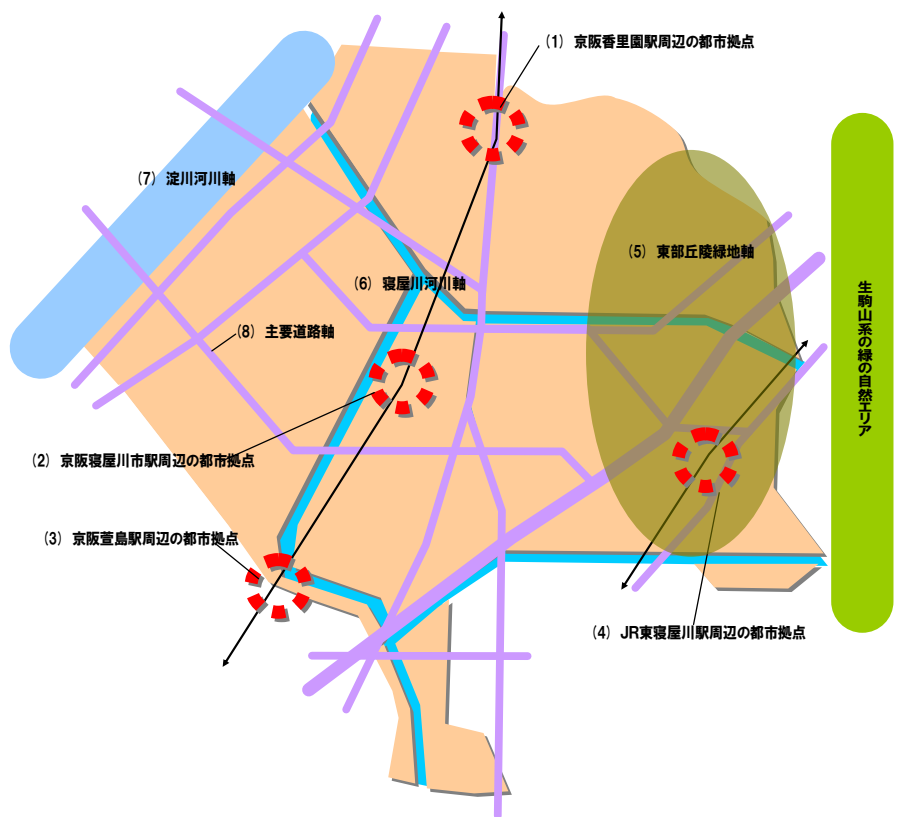
このような中、近年、本市の都市核と位置づけられる京阪寝屋川市駅や京阪香里園駅の駅前では、市街地再開発事業が実施され、玄関口の景観が変わろうとしています。

特に、京阪寝屋川市駅の東側地区では、市街地再開発事業とともに、都市計画道路寝屋川駅前線の整備が進められ、シンボルロードに相応しい道路や沿道の景観を形成していくことが必要です。

一方、京阪寝屋川市駅の西側においては、本市の名称の由来でもある「寝屋川」も市街化に伴い、市民の生活とは空間的にも遠い存在でしたが、寝屋川せせらぎ公園や幸町公園が整備されるなど、親水性を有した空間が整備され、ゆとりとうるおいのある空間となっています。

このような本市の地形的特徴や市街地形成の歴史的経緯等から、本市は右図に示すように、“都市拠点”と“軸”で景観構造が構成されています。

寝屋川市の景観構造図



◇都市拠点：(1)京阪香里園駅周辺都市拠点

(3)京阪萱島駅周辺都市拠点

◇軸：(5)東部丘陵緑地軸

(7)淀川河川軸

(2)京阪寝屋川市駅周辺都市拠点

(4)JR東寝屋川駅周辺都市拠点

(6)寝屋川河川軸

(8)主要道路軸

これら都市の骨格をなす都市拠点及び軸について、地形的、自然的な要因などを活かし、美しいまちなみづくりの基盤を形成していく必要があります。

5-2. 骨格的な景観構成要素の特性

(1) 香里園駅周辺の都市拠点

香里園駅の東側の丘陵地では、交通環境の改善や複合的な都市機能の集積、防災機能の向上など、本市の北核として相応しい拠点となる『香里園かほりまち』の実現をめざし、枚方市域も含めた市街地再開発事業により、都市計画道路香里園駅東線や駅前広場、歩行者デッキなどの公共施設の整備が進みつつあります。

市街地再開発事業とともに、現在検討が進められている京阪本線（寝屋川市・枚方市）連続立体交差事業などにより、まちなみは大きく変化しようとしています。

また、香里園駅の西側は、高度経済成長期に形成された密集住宅地区も広がっていますが、香里駅前線及び駅前広場が整備され、その沿道では、スーパーや中高層住宅などが立地し、まちなみが変化してきています。

市の北部の玄関としてまちづくりが進む香里園駅周辺では、市街地再開発事業や京阪本線（寝屋川市・枚方市）連続立体交差事業、地形などの地域特性を活かした一体的な景観形成が必要です。



<香里園駅西側の駅前広場周辺の景観(駅前広場の整備により変化するまちなみ)>



<香里園駅西側の香里駅前線沿道の景観(中高層住宅の建設が進み沿道景観が変化しているまちなみ)>



(2) 寝屋川市駅周辺の都市拠点

寝屋川市駅は、駅の東側では昭和 50 年代に実施された市街地再開発事業の再開発ビルが立地するとともに、平成 13 年 10 月に京阪本線（寝屋川市）連続立体交差事業による寝屋川市駅の高架化やそれに伴い駅の東西において駅前広場が再整備され、駅の東側では歩行者デッキが整備されています。

また、現在、駅の東側の地区において実施されている市街地再開発事業及び街路事業により、市のシンボルの道路と位置づけられ駅前広場へのアクセス道路となる都市計画道路寝屋川駅前線の整備が進められています。

一方、西側地区では、駅前広場と隣接して流れる寝屋川の河川敷が寝屋川せせらぎ公園として整備され、市民へうるおいの親水空間を提供しています。

さらに、西側では、市域を南北に貫く友呂岐水路沿いに友呂岐緑地が整備され、桜の季節など、市民の散策や憩いの場として親しまれています。

市の中央部の玄関としてにぎわいや憩いの場づくりが進む寝屋川市駅周辺では、回遊性の創出などとともに、地域資源を活かした一体的な景観形成が必要です。



<寝屋川市駅東側の景観(市街地整備により変化しているまちなみ)>



<寝屋川市駅西側の景観(川沿いに並ぶ多様な看板)>



(3) 萱島駅周辺の都市拠点

萱島駅は、京阪本線（守口・門真・寝屋川市内）連続立体交差事業時に萱島神社の大楠が残され、駅のシンボルとなっています。

萱島駅の西側では、駅の直近に下神田の古いまちなみが見られ、その西側は門真市域の住宅地となっています。

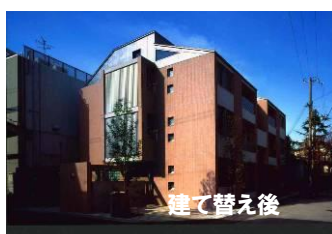
駅の東側には、寝屋川が流れ、市道萱島堀溝線沿いには商店街があります。

萱島駅の後背に広がる密集住宅地区では、住宅市街地総合整備事業や防災街区整備事業により、共同建て替えや協調建て替え、主要生活道路の整備が進むとともに、萱島東地区拠点の開発地区においてエルフラッツ萱島や萱島東住宅（府営住宅）、いらか（特定優良賃貸住宅（府住宅供給公社））などの集合住宅、からくる親水公園などが整備され、密集住宅地区のまちなみから美しい景観のまちなみに変化しつつあります。

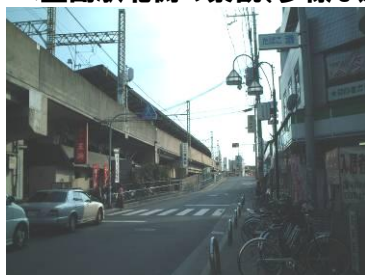
市の南部の玄関として密集住宅地区の整備が進む萱島駅周辺では、さらに美しいまちなみづくりが必要です。



<萱島駅周辺の密集住宅地区の景観(建て替えにより変化したまちなみ)>



<萱島駅北側の景観(多様な建物などが建ち並ぶまちなみ)>



<萱島駅南側の景観(多様な建物などが建ち並ぶまちなみ)>



(4) 東寝屋川駅周辺の都市拠点

東寝屋川駅周辺は、都市計画道路東寝屋川駅前線の一部が供用されるなど、一定の基盤が整い、商業施設の立地などにより地域の暮らしの拠点となっています。

東寝屋川駅の後背には、生駒のやまなみを背景とした中高層住宅を中心とした住宅団地や旧集落などとともに、北側には広大な寝屋川公園があります。

また、府道枚方泉佐野富田林線沿道では、商業施設等も軒を連ね、まちなみも変化してきました。

市の東部の玄関としてまちなみが変化してきている東寝屋川駅周辺では、多様な地域資源を活かした美しいまちなみづくりが必要です。



<東寝屋川駅南側の景観(商業施設や高層住宅が建ち並ぶ東寝屋川駅前沿道のまちなみ)>



<東寝屋川駅北側の景観(旧東高野街道の面影を残すまちなみ)>



(5) 東部丘陵緑地軸

東部丘陵緑地軸には、寝屋川公園やその周辺緑地、太秦東が丘周辺の斜面緑地、明和・打上周辺の緑地、高宮廃寺跡付近の緑地、住吉（大峰）山（打上）付近の緑地、国松丘陵地の緑地など市域においても貴重な緑地環境を有しています。

寝屋川公園の周辺緑地は、市内で最も多くの自然の緑地に包まれた地域で、大規模公園（寝屋川公園）をはじめ、第二京阪道路や寝屋南土地区画整理事業地区、クリーンセンターなどの人工・都市的施設や、寝屋の長者屋敷跡、寝屋神社などの歴史的な景観資源があります。



太秦東が丘周辺の斜面緑地は、丘陵地の住宅開発が進み斜面地に残された自然の緑地で、その横を打上川が流れ、豊野浄水場や第二京阪道路とその取り付け道路などの都市的施設があります。



明和・打上周辺の緑地は、丘陵地の斜面地に残された緑地で、中高層住宅や福祉施設が立地しています。

高宮廃寺跡付近の緑地では、高宮の丘陵部の高宮廃寺跡（昭和53年国の史跡指定）付近の自然緑地で、周辺には権現堂池、新池、宮池などのため池があります。

住吉（大峰）山（打上）付近の緑地は、市域で最も高い標高約100mの丘陵地にあり、また、市内で比較的自然的状態がよく保たれている緑地があります。周辺には吉野池、中池などのため池があり、住吉山からは眺望を楽しむことができます。また、国の史跡に指定されている石宝殿古墳は、高地の樹林内にあり、水不足に困らないようにと祠られている高良（打上）神社などの歴史的な資源を有し、付近に桜並木の打上配水池があります。

国松丘陵地の緑地は、丘陵地に残された自然の緑で周辺にはこも池、中池、堂池などのため池があります。また、国松丘陵地の西部平坦部に天然記念物に指定されているシイの社叢やアベマキ、アラカシ、クスノキなど市の保存樹を有する春日神社が位置しています。



このように、市域においても貴重な緑地環境を有する東部丘陵緑地軸では、都市生活の中にうるおいをもたらす積極的な活用も含め、これらの緑地環境をできるかぎり保全していく必要があります。また、第二京阪道路の広域交通網を利用した商業・流通・業務などが複合的に立地する魅力ある都市拠点の創出や健全な市街地の形成、公園・緑地の整備などと連携し、丘陵の伸びやかな景観や市街地への眺望、新市街地におけるまちなみなどについて、魅力ある景観を育む必要があります。

(6) 寝屋川河川軸

全般的に景観資源が少ない本市において、寝屋川は市域の中央部を巡り、上流部の自然度の高い環境から密集住宅地区、あるいは都市拠点ネットワークするきわめてシンボル性の高い景観条件を有しています。

寝屋川の川沿いには、自然的資源として寝屋川の流源そのものが、歴史・文化的資源として八幡神社や伝・秦河勝の墓、千種庄右衛門碑、三本松、行基みち、旧交野街道、旧山根街道が、人工・都市的資源として寝屋川団地や寝屋川公園墓地、打上川治水緑地、三井団地、八幡台、府立高専、寝屋川浄化ポンプ場、池田秦線（桜木橋）、寝屋川市駅・萱島駅、幸町公園（親水公園）、寝屋川せせらぎ公園（親水公園）、友呂岐緑地、深北緑地などがあります。

このように多様な資源が川沿いに分布する寝屋川の上流部では、農地、斜面樹木などとともに、三井団地など大規模な住宅団地や寝屋川公園墓地、打上川治水緑地など大規模な公園・緑地により、緑の豊かな広がりのある景観となっています。

市街地内を貫流する中流部では、水質の悪化や河川改修などによる景観面でのマイナスイメージもありましたが、近年、公共下水道の整備により水質が浄化されるとともに、幸町公園や寝屋川せせらぎ公園などの河川修景に配慮した親水公園の整備など本市のシンボルとしての再生への取り組みを進め、より市民に身近な存在となりつつあります。

各所で河川や水路が合流する下流部では、多様な土地利用の混在も見られますが、やまなみの眺望や旧集落の存在などにより、比較的広がりのある景観となっており、河川、水路を利用した水辺空間の創造をしています。

このように、寝屋川河川軸は、上流部から下流部にかけて変化に富んだ景観を有しており、今後はさらに親水性を高め、都市拠点の整備などとともに、公共的施設空間において景観的な配慮を充実していく必要があります。

また、橋詰にある樹木などのランドマーク、アイストップとして景観上重視される対象については、積極的に保全し、特徴ある景観づくりに活用していくことが大切です。

また、骨格的な景観として、寝屋川を軸とする「らしさ」の醸成、周辺地域との連携など厚みのある景観整備・形成が必要です。

流域に分布する景観資源を活かしながら、市民、事業者、行政の協働による「寝屋川河川軸」の景観づくりを進めていく必要があります。



(7) 淀川河川軸

淀川は、長い歴史的な背景を有するとともに、利水・治水など地域と大きなつながりを持っています。

また、「淀川河川公園」は、広域的なレクリエーションの場として親しまれているとともに、淀川河川敷の通景とともに、対岸の北摂山地が眺望できるなど、広がりのある景観が形成されています。

淀川の川沿いには、歴史・文化的資源として旧京街道や幹線水路沿いの桜並木、太間天満宮が、人工・都市的資源として大阪府立水生生物センターや太間排水機場、寝屋川導水路、淀川新橋、国道1号（京阪国道）や鳥飼仁和寺大橋、茨木寝屋川線、（都）*千里丘寝屋川線、寝屋川点野住宅、寝屋川仁和寺住宅などがあります。

*（都）は都市計画道路の略。以下、都市計画道路を（都）と略

このように多様に分布する資源の中でも、大阪府立水生生物センター、寝屋川導水路、太間排水機場及び桜並木が続く幹線水路などは川と人のつながりを感じさせます。

また、国道1号（京阪国道）や鳥飼仁和寺大橋の景観、中層住宅団地といった現代的な景観要素も分布しています。

淀川河川軸では、これらのさまざまな要素の調和を図るとともに視線を遮るもののない広々とした景観を壊すことなく、全体としてウォーターフロントの雰囲気をつくり、市民に身近なものにしていくとともに、淀川の自然環境の保全などを通じて本市ならではの景観を形成していく必要があります。



(8) 主要道路軸

道路軸の景観は、道路空間そのものの景観とともに、沿道の土地利用、建物、その他さまざまな要素によって構成されています。

主要道路軸は、都市構造の骨格を構成するとともに、まちなみを誘導していくうえでは重要な役割を果たし、道路や沿道における景観形成・整備は「まち」にとっては大切です。

また、市民にとってもより身近な存在であり、市域全体の景観整備を進める上でも効果的であると考えられます。

このように、本市の都市構造の骨格を構成する主要な道路軸の景観上の特性をみると、次のようになります。

◇国道1号(京阪国道)・国道170号(大阪外環状線)

国道1号(京阪国道)や国道170号(大阪外環状線)などの広域的な幹線道路の沿道では商業・サービス業・工業などの立地が活発です。

これらの道路では、沿道の事業所の敷地外構の殺風景さや広告看板の色彩、大きさ、数量あるいは設置場所などにおける煩雑さがあります。



道路サイドにおいても、ガードレールなど交通安全施設の景観的配慮が望まれます。

◇京都守口線・八尾枚方線・枚方富田林泉佐野線・国道163号

これらの幹線道路についても、本市の市街地形成に果たしてきた役割は大きいものといえますが、沿道では住工混在など沿道土地利用上の課題を持っています。

特に、京都守口線沿道では、工場転出跡地への商業施設の進出や中高層住宅の建設が進み、まちなみが変化しつつあります。



◇(都)千里丘寝屋川線・(都)梅が丘黒原線

(都)千里丘寝屋川線は、鳥飼仁和寺大橋により北摂地域と北河内地域を結ぶ重要な道路と位置づけられ、(都)梅が丘黒原線とともに市内においても市街地の整備上大きな役割を担っています。沿道は、商業施設の進出や中高層住宅の建設が進み、まちなみが変化しつつあります。



◇(都)池田秦線

(都)池田秦線は、市域を東西につなぐ重要な幹線道路であり、沿道には市役所や総合センター、打上川治水緑地、寝屋川公園墓地などの自然を活かした公的施設が立地しています。



◇第二京阪道路

第二京阪道路は、広域を結ぶ幹線道路及び高速道路であり、沿道には寝屋川公園や住宅、農地などがあります。今後は、幹線道路の沿道としてまちなみも大きく変化していくものと考えられます。



5-3. 一般市街地(地区レベル)の景観特性

一般市街地での景観形成にあたっては、地形条件やさまざまな景観資源の分布、市街地の特性などから＜小さな景観構造～身のまわりの景観＞に着目して、方向づけを行う必要があります。

(1) 小さな景観構造～身のまわりの景観

＜小さな景観構造＞として各地域に残されている“水”と“緑”、旧集落などの景観資源を保全し、活用することにより、特色あるまちなみ景観を創出し、地区の特性を活かした個性的な景観形成を通じて「“水”と“緑”につつまれた魅力ある都市景観の創造」を図っていく必要があります。

本市は、市街地形成過程の中で、きわめて多様な市街地が形成されてきています。

一般市街地では、特に中部から西部の平坦地域では、密集住宅地区があるほか、住商及び住工が混在している地区もあります。

これらの地区では親しみやすい雰囲気も感じられ、これを壊すことなく景観形成の誘導を図っていく必要がある。

また、市街地の中に残された旧集落や社寺林、その他の歴史的な資源、農業地域であった頃の名残りととどめる水路網、介在農地などが密集感を緩和している状況にもあります。

また、東部丘陵部では、計画的市街地（低層、中高層）が形成され、街路樹や生け垣などによる緑豊かな環境がつくられています。また、旧来からの集落の景観やため池、小河川などの水環境、社寺林などの緑環境が散在し、全体としてうるおいのある景観が残されています。

小さな景観構造

形態	環境イメージ	景観資源	景観の種別
面的・点的	雰囲気	市街地	親しみやすい 下町的
	環境上の課題	市街地	密集
	過密感の緩和	歴史的な資源	住商・住工の混在 市街地に埋没しているような旧集落 社寺林等
		水路網／介在農地	農業地域であった頃のなごり
	一体化した住宅地景観	市街地	計画的市街地（低・中高層）の景観 生け垣など
線的	うるおいの景観	旧来からの集落	集落景観
		ため池／小河川	水辺の景観、親水景観
	緑豊かな環境	社寺林など	緑の環境
線的	地区街路網	市民の生活道路	“わきみち”景観

(2) 一般市街地の景観の考え方

一般市街地の景観については、次のような要素に注目し「寝屋川らしい」市街地景観の醸成をめざす必要があります。

自然的な環境

A 水環境

A-1 小河川、水路

市域の西部では、農業用・排水路が縦横に走り、あちこちで水を感じることができる場所があります。

市街地の密集住宅地区の課題はあるものの、公共下水道の整備により水質は改善され、市街地の中のネットワークの一つとして位置づけ、活用を図りたい要素です。

小河川、水路などの合流点は、こうした中でもシンボリックな意味を持ち、景観上大切にしたい場所です。

A-2 ため池

丘陵部に点在するため池は、農地が少なくなる中で、その役割が薄れつつあります。しかし、水の持つうるおい、清涼感は都市生活に欠かせないものです。

また、水鳥の飛来や水生動植物の生息は、自然の生態系と人間生活のふれあう場として貴重な環境を有しています。

一部のため池は、都市公園の中に取り入れ、整備を進めてきており、さらなる水質の改善など、今後も十分に保全・活用していきたい要素です。

B 眺めのよい場所(視点場)

やまなみを眺める、河川の通景を楽しむ、自分たちの住んでいるまちを見渡すことなどは、現在の都市生活の中では貴重な体験となりつつあります。

道端、橋、堤防上など人々が気軽に立ち寄れる場所で、眺望を楽しめる場所をつくるのが大切です。ちょっとした配慮で、生活にうるおいをもたらすことができます。

歴史的な環境

C 旧街道

現在も機能している旧街道は、路地や細い街路などとも結ばれ、通学・通勤や買物の道として地域に密着した生活道路としての機能を果たしていますが、地域のまちなみとの調和を図り、景観的にも重視される必要があります。

D 社寺林

市内各地に分布する社寺境内には、歴史を感じさせる雰囲気とともに、樹齢を経た大樹、樹叢があり市街地における貴重な緑の環境として位置づけることができます。

現状では、周辺の市街地の進行によりその存在が薄れてきていますが、その存在を明らかにし、保全・活用を図る必要があります。

都市施設などの地域固有の資源(人工・都市的資源)

E 道筋、街道

本市における初期の市街地は、スプロール的な路地や細い街路により構成されており、交通面などの課題がありますが、古くからの形態を残しているものもたくさんあり、地域固有の資源である旧集落のまちなみなどの特徴にあわせた景観的配慮を図る必要があります。

F 農地

市街化区域内に残存する農地は、生産緑地を除いて基本的には市街化の対象と位置づけられますが、密集住宅地区などにおいては貴重なオープンスペースとしての役割を果たし、道を歩く人たちにうるおいと安らぎを提供しています。

今後、農業体験、レクリエーション利用など都市生活の魅力を向上させる場や市民交流の場として位置づけ、保全・活用を考えていくことが必要です。

G 小公園・広場

小公園・広場は、子どもたちや高齢者をはじめ地域の人々に愛される存在であり、今後は、さらに地域の景観づくりの核となるよう、また、維持管理を含み地域コミュニティの核となるよう、充実を図っていくことが必要です。

H 幼稚園、小・中学校

幼稚園、小・中学校などは、地域におけるシンボル性は高く、敷地周辺の植栽などによる緑化、建築物の景観への配慮は、街角の景観づくり、子どもたちへの情操教育などともあわせて重要です。

I その他公共的施設

市内の公共的施設は、都市景観づくりをリードする存在です。全市レベルから地域レベルにいたる各種の施設について、十分な景観的配慮を行う必要があります。

J 商店街

市内各地に分布する商店街は、幹線道路沿道への大型店の進出などにより、様相が変化してきていますが、地域の日常生活の場としてにぎわい、親しまれています。特に、商店街は、主として前記の「E 道筋・街道」に比較的多く分布し、まちなみのランドマークともなっているため、日常生活の買い物や人々の交流などの場として充実していくことが必要です。

K 密集住宅地区など

本市では、老朽木造賃貸住宅が多く集まる密集住宅地区について、市民参加による整備計画を作成し、共同建替えなど住環境の整備を進めています。

これらの事業による街区の再編成にあたっては、街路・広場の確保、壁面緑化の推進、建物の意匠の配慮などにより、新たな市街地景観の創出も期待でき、まちなみの景観を誘導していくうえでは重要な要素です。

(3) 主要な景観構成要素

一般市街地における主要な景観構成要素は、次のようなものとして整理できます。

構成要素を＜面的・線的・点的＞といった要素の形態と広域から市域、基本エリア、景観基本単位（地区）といった領域の広がり、さらに、自然的＜眺望＞、歴史・文化的、人工・都市的といった要素によって区分し整理しました。

これらは、今後の景観形成・整備の取り組みにおいて、地域ごとに景観資源を要素により区分することにより、その地域ごとの特性を明らかにし、その地域の特性に応じた景観形成・整備の展開を図ります。

主要な景観構成・要素の整理

要素の形態	圏域要素			線の要素		点的要素	
領域の 広がり 要素	広域的広がり (北河内地域)	市域	基本 エリア	広域的広がり (北河内地域)	基本 エリア	景観基本単位	点的要素
自然的景観 (眺望) 資源	●生駒山系のやまなみ (山麓部)	●東部丘陵地 ●斜面樹林		●寝屋川河川軸～河川・水路網 幹線水路－桜並木		●打上川治水緑地 ●深北緑地 ●斜面残存樹林	
	●淀川河川敷－淀川レクリエーション拠点－淀川の通景・堤防上からの眺望			●讃良川堤防上からの眺望		●石宝殿古墳付近の眺望	
歴史的・文化的 資源		●条里制遺構 ●貴重な植生など 高宮廃寺跡 周辺樹林		●歴史的街道 ●文化と歴史のネットワーク散策コース		●旧集落・一体と なった農地	●社寺林 ●旧家・水屋
人工・都市的 景観資源	●寝屋川公園	●市域東部・南部の田園風景 ●東部丘陵住宅地 ●香里園・寝屋川市・ 萱島・東寝屋川駅前 ●市役所周辺 ●寝屋南土地区画整理事業地区		●広域的幹線道路沿道 国道1号(京阪国道)、京都守口線、大阪外環状線 (国道 170 号)、八尾牧方線、千里丘寝屋川線、梅 が丘黒原線、第二京阪道路 ●広域地域歩行者道 ●自転車道沿道 ●地域的幹線道路－池田秦線 ●太秦萱島線・街路 生活道路～コミュニティ道路 ●寝屋川駅前線 ●寝屋線 ●緑道 ●友呂岐緑地		●南寝屋川公園 ●駅・商業施設 ●近隣公園 ●まちなみ 戸建て住宅地 集合住宅団地	●市民会館 ●総合センター ●学校 ●街区公園 小公園・広場 など

(4) 一般市街地の景観特性と課題

本市の市街地の現状や＜小さな景観構造＞から＜身の回りの景観＞など景観の特性から市域を区分すると、大きく西部・中央・東部の3つのエリアに分けることができます。

＜西部エリア＞

淀川河川敷の通景から平坦地域に市街地が広がっていますが、現在もなお多くの水路や農地が残り、水や緑を活かした親しみのある市街地景観の形成が期待できます。ここでは、都市基盤整備の推進と合わせた「水と緑に親しめる」景観形成を図っていくエリアです。

＜中央エリア＞

大阪都市圏における人口急増の受け入れ地域として、鉄道駅を中心とする密集住宅地区が形成されています。しかし、市民の流れが集まり、にぎわいのある都市的な楽しみのもとになっており、生活中心におけるシンボリックな景観の形成・整備と「うるおいづくり」が望まれるエリアです。

＜東部エリア＞

土地区画整理事業による計画的な住宅地が形成される一方、市街化調整区域における樹林地、農地などの緑も残されている地域です。

一方、JR片町線（学研都市線）のサービスの向上や民間開発などとともに、広域のレクリエーション拠点として「寝屋川公園」の整備が進められています。さらに、広域幹線道路である第二京阪道路が整備され、周辺の土地利用に大きな変化が予想されます。

ここでは、住宅地における良好な居住環境の保全とともに、歴史的資源やレクリエーション空間の緑を活用し、緑豊かな都市景観の形成を図っていくエリアとして位置づけることができます。

一般市街地のエリア別都市景観の特性・課題

